

分科会 4

IPS・就労移行支援 ～本人の意思決定を大切にすることの意味～

香田真希子（目白大学）
井上苑子・大江祥博（就労支援センターFLaT）
大島みどり（NPO 法人NECST ユースキャリアセンターフラッグ）
小佐々典靖（国立障害者リハビリテーションセンター）
中島吾木香（株式会社リクルートスタッフィング）
中谷真樹（公益財団法人住吉偕成会住吉病院）
本多俊紀（NPO 法人コミュネット楽創）

【企画主旨】

リカバリー志向のプログラムである「IPS」のゴールは本人のリカバリーです。

IPSでは「障害を職場にオープンにするか・クローズにするか、どんな仕事がしたいのか、どんな支援をして欲しいのか」等の意思決定は専門家主導ではなく、本人主体で行います。

支援者は働きたいと希望する本人の同伴者であり、本人の希望を叶えるための職場調整も含めた環境調整を重視しています。

意思決定を自分で行うことの意味・意義について皆さんと共に考え、自分のリカバリーの旅において意思決定していくためのパワーやアイデアをもらいました。

【スケジュール】

オリエンテーション(香田)

IPSとは？(中谷)

本人の意思決定をなぜ大切にすることか(本多)

本人の役割と支援者の役割（大江）

就労移行支援事業の現状(小佐々)

就労移行支援事業におけるIPSの課題と可能性(大島)

前半のQ&A

グループワーク& 全体シェアリング

自分が意思決定をしたいこと したいけど出来ないでいること

1. 私が本当は意思決定したいこと
2. したいけど出来ないでいる理由(バリア)はなんだろう
3. そのバリアを取り除く・軽減するために
あなたができる工夫ってなに？
4. グループメンバーからのアイデア(応援メッセージ♪)

《香田真希子（目白大学）》